

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかる

ために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんと、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて クラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	北海道地区大学体育大会(体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会 (体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局

体育局を振り返って

体育局長 阿部 悠太(薬学部3年)



一昨年に在籍しているアメリカンフットボール部の当時の主将に薦められ体育局員となりました。特にやることはなく、ひとまず籍を置くだけということでしたので承することにしましたが、現実にはそう甘くはなく、主な活動内容として、体育局的定例会の開催をはじめ、各団体の1年間の経費などをそれぞれの代表の方と調整する予算面談や決算面談などがありました。そのうえ局長にまでなり、予想していなかった結果となっていました。

当初は各団体の活動を管理したり、多額のお金を運営するということでも大きな責任を負うことに抵抗がありましたが、各団体や学生支援課の方々の協力もあり、特に問題も起こることなく任期が過ぎていきました。

また、学友会のそれぞれの局長が取り仕切る運営委員会の議長も務め、団体の新規設立や高額の物品購入などを各学部の先生方や学生支援課の方と協議しました。

大きな責任の伴う活動でしたが、任期を終えたときは充実感に変わり、体育局長を務めていた1年間はとても有意義なものになりました。成り行きで始めた体育局でしたがとても良い経験を積むことができ、人間的にも大きく成長できたと思います。協力して頂いた学生支援課の方々をはじめ、各団体の方々、そして当時の主将、本当にありがとうございました。

文化局

感謝を込めて

文化局長代理 鍛冶 麻衣子(薬学部2年)



私は今年度文化局長代理を務めさせていただきました。毎年、文化局執行部は11月上旬に文化週間という発表の場を設け、企画・運営を行っています。今年度もたくさんの方々に文化週間を楽しんでいただくため、学友会掲示板にて各団体の発表内容と日程をまとめたポスターを作成しました。

また、文化局の仕事は文化週間だけでなく、月に1度の定例会などを通して各団体の活動が円滑に行えるように日々向上を目指して運営しています。文化局長代理になった当初は、わからないことばかりでした。人に物事を伝える難しさや、資料の整理、定例会、文化週間の企画・運営など苦心した面もたくさんあります。しかし、今回このような立場となって、人をまとめる側の苦労や責任を実感することができ、今後社会に出ていくために良い経験をさせていただいたと思っています。

1年を振り返ると、月日はあっという間で、多くの方々の支えあってこの度無事に文化局長代理としての務めを終えることが出来ました。特に、学生支援課の方には大変お世話になりました。ご指導いただき本当にありがとうございました。

これから新しい代の文化局執行部が始まります。文化局の更なる活動の発展と躍進を心よりお祈り申し上げます。1年間どうもありがとうございました。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員長 横関 健治(歯学部3年)



大学祭実行委員会の委員長に就任が決まった時、私はとにかく先輩方が伝えていると聞いてきたものを先輩へ繋ぐことを第一に据え、「たくさんの方に来場してもらえる様な九十九祭にしたい」と考えました。

より良い九十九祭にするためには、反省点を見直し改善していくしかありません。そこで不安材料となったのが、人数の少ない実行委員でどのように運営するかという点でした。しかし、それは数多くの新入生が実行委員会に参加してくれたことと、実行委員全員の頑張りにより解消されました。

前夜祭には学生や教職員の方々はもちろんのこと、子供を連れて一般の方々など、多くの方々が足を運んでくださり、今回2度目の試みとなる打ち上げ花火の際には、盛り上がりを見せていました。九十九祭当日は途中で雨が降ることもありましたが、実行委員全員の頑張りをはじめ多くの方々の協力により、大きなトラブルもなく無事に成功させることができました。しかし、同時に多くの反省点も得られました。新学部が創設される来年度は、その反省を活かして、実行委員も一致団結し、より多くの人が楽しめる九十九祭にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今年度の九十九祭開催にご協力いただいた学生、教職員、企業の方々にご場をお借りして、心から感謝を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

EDITOR'S NOTE

別れと新たな出会いの季節がやってきました。卒業にはGraduationの他にCommencementという訳語があり、これには出発、あらたな世界に向けての船出という含意があるようです。新しい職場でどんな方々と一緒にどんな仕事をしていくのか。彼らの健闘を期待しエールを送りたい気持ちでいっぱいです。邂逅という言葉が示すように、どのような人と巡り合うのかは時にその人の人生にとって決定的な意味を持つことがあります。人との出会いについて、作家の宮本輝さんの近著『水のかたち』の中に素敵一文を見つけたので紹介致します。「善き人との出逢いやつなかりが、思いもかけない幸福や幸運を呼ぶ」、「善き人とは、他者の痛みや悩みを我がことのように感じ、何とかが力になってあげよう」と行動を起こす人と定義したい。これから先、善き人と出会い豊かな人生を切り開いていきますように、そして自らが他者にとって善き人となることができますように、在学生とともに卒業生諸君の健闘をおおいに期待する次第です。(K.S記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.154

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
 鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
 榎原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
 國見 明美 戸藤 成人

発行日 ● 2013年3月13日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
 ☎(0133)22-2113
 http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
 E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
 生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

